

2022年12月23日

報道関係者各位

カールストルツ・エンドスコープ・ジャパン株式会社
衝撃波デバイスチーム

【Newsletter】体外衝撃波治療 ユーザーインタビュー VOL. 4

長引く痛みへの新しいアプローチ
- 体外衝撃波治療のエキスパートに聞く -

第4回：医療法人 三仁会 春日井整形外科 リハビリテーション科 水谷 仁一 先生

カールストルツ・エンドスコープ・ジャパン株式会社の衝撃波デバイスチーム（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：ティロ・ドール）では、体外衝撃波治療器を取り扱っています。体外衝撃波治療とは、音波の一種である「衝撃波」を体内の組織に伝達することで、疼痛改善や組織修復を促す治療法です。今回弊社では、体外衝撃波治療をより多くの方に知っていただくために、この治療をおこなわれている医療関係者の識者の皆様に2022年12月から、4回シリーズでインタビューを実施いたしました。第4回目は、春日井整形外科 リハビリテーション科の水谷仁一先生にお話を伺いました。

拡散型圧力波治療をおこなうメリット

徒手療法の場合、表層から緩めていき、徐々に深部の組織にアプローチしていくのですが、R-PWを用いることで徒手では到達するのに時間がかかる身体深部の組織に素早く到達できます。時間で言うと徒手の3分の1程度の短時間で組織を緩められるため、施術者の身体への負担も軽減できますし、その分の時間を他の施術やトレーニングなどの運動療法にまわすこともできています。

それだけでなく、即時的にその効果を実感できるというメリットも大きいと考えています。1回の施術は10～15分程度ですが施術前後の差をしっかりと感じることができます。

全文は、当社ウェブサイト：https://www.shockwavetherapy-jp.com/pdf/interview_report03.pdfからもご確認いただけます。



水谷 仁一 先生

（医療法人三仁会 春日井整形外科 リハビリテーション科）

1999年3月に中部リハビリテーション専門学校理学療法薬部をご卒業後、医療法人三仁会系列の病院などで臨床経験を積まれる。その一方で研究活動にも力を入れられており、2010年には名古屋市立大学大学院の生体情報組織学の修士課程を修了。現在は医療法人三仁会春日井整形外科リハビリテーション科で日々患者様と向き合いつつ、これまでに中部大学生命健康科学部で疼痛について、現在は豊橋創造大学で拘縮についての基礎研究もされている。拡散型圧力波の可能性を最大限に引き出すべく、圧力波による細胞・組織への作用を意識しつつ、各症例における最適な照射部位、治療プロトコル等の模索を継続的におこなわれている。

●ご参考：体外衝撃波治療の基本情報

<https://www.shockwavetherapy-jp.com/information/>

●衝撃波デバイスチームについて

弊社はドイツに本社を置く、内視鏡の製造販売会社です。衝撃波デバイスチームでは姉妹会社である STORZ MEDICAL 社製の体外衝撃波治療器の整形外科向け製品を取り扱っております。STORZ MEDICAL 社は、ドイツに国境を接するスイスのテーガーヴィレンという美しい街にあり、これまでに全世界で 50,000 台以上の衝撃波デバイスの販売実績があるメディカル ショックウェーブテクノロジーの世界的なリーディングカンパニーです。

コーポレートサイト：<https://www.shockwavetherapy-jp.com/>

【本件に関するメディアからのお問合せ先】

カールストルツ・エンドスコーピー・ジャパン株式会社

VMG 事業部 衝撃波デバイスチーム 佐々木

TEL：03-6380-8648 Email：shockwave-jp1@karlstorz.com